

現場のプロに聞く (株式会社ティーバース)

広報委員会 内海 実



ヘアサロン
【hair Marmalade Skies (マーマレードスカイ)】

オーナー/スタイリスト **吉本 安宏** さん

インタビュー場所

宮城県仙台市青葉区一番町2-7-3
ベアービル3階

hair Marmalade Skies (マーマレードスカイ)

皆さんは、床屋派でしょうか美容室派でしょうか？ はたまた自分で？

今回の“現場のプロに聞く”は、「ヘアサロンhair Marmalade Skies (マーマレードスカイ)」オーナー/スタイリスト 吉本安宏さんにお話を伺ってきました。

◆まるでカフェバーのような雰囲気のお店ですてきですね。男性的というかワイルドな感じですよ。

「hair Marmalade Skies(マーマレードスカイ)」は、地元仙台のサロン勤務を経て、五橋で独立開業し28年、現在はこちら一番町にサロンを構えております。

室内は、趣味である音楽と50's-60'sのアメリカ、ミッドセンチュリーを意識したインテリアを心掛けました。好きなものに囲まれていると楽しいですよ。



◆どうして美容師という職業を選んだのですか？

小学生の頃でしょうかね、当時暮らしていた家の近所におしゃれな床屋ができたんです。昔ながらの「白衣を着た理容師さん」がいる床屋ではなく、お店のBGMがソウルミュージック、スリーピーススーツにアフロヘアと当時流行のファッションに身を固めた「とんでもなくおしゃれな理容師さん」がいて、一発であこがれてしまい職業に決まりました。

なぜ、理容師ではなく美容師を目指したかと言いますと、当時、男性美容師の人気が出てきてまして、おしゃれと言えば美容師ということで美容師の道に進みました。カリスマ美容師ブームが起こる少し前ですかね。



◆美容師さんと理容師さんの違いは何ですか？ また、どうすれば美容師さんになれるのでしょうか？

美容師の仕事は、美容師法によれば「パーマネントウェーブ、結髪、化粧などの方法により、容姿を美しくすること」。理容師の仕事は「頭髪の刈り込み、顔剃りなどの方法により、容姿を整えること」と理容師法に定められています。

美容師は「美しくする」で、理容師は「整える」。美容師はメイクをするにあたって必要な施術のときにしかカミソリを使った顔剃りができません。一方、理容師は女性客にパーマをあてることができません。

どちらも髪を切ることに同じですが、「できること」が微妙に異なり仕事の範囲が違うのです。

美容師になるには、国家資格である「美容師免許」が必要です。厚生労働省指定の美容師養成施設（昼間課程2年、夜間課程2年もしくは2年6カ月）を修了することで、国家試験の受験資格を得ることができます。また、3年制の通信課程を利用して、まず美容室に就職して働きながら資格取得を目指す人もいます。美容師国家試験は春期と秋期の年2回実施されます。この国家試験に合格して美容師免許を取得することで、初めて美容師になることができます。

◆テレビドラマなどでは、営業が終わった後に練習しているシーンなどよく見ます。

美容師免許を取得すれば、美容師と名乗ることができますが、学校で習う技術は極々基本的なことではかありませんので、常に技術のレベルアップのために勉強やトレーニングを積んでいかなければなりません。

特に最初は、シャンプーや薬剤で手荒れをしたり、慣れない長時間の立ち仕事が続いたり、美容師としての身体ができていないこともあって、きついこともありますね。でも、あこがれて飛び込んだ世界ですので頑張れるのではないかと思います。

まだドレッドヘアが珍しかった頃に、DJをしていた友人のドレッドヘアを解いたりして、だいぶ研究や練習をして自分流のドレッドヘアを作り上げたこともありますね。

美容師は専門的な知識と技術を用いて仕事をする「技術職」です。技術職として働くためにはお客さまに満足してもらえるようなテクニックの習得やスキルを磨く必要があります。

また、美容業界は常に変化がある業界です。ヘアスタイルの流行はどんどん変わり、新しいカット手法、パーマやカラーリング技術が発表され、毎年のように新しい薬剤が出ます。そのため、美容師にも常に新しい技術を習得し、新しい薬剤に関する知識を身につけることが求められるのです。



◆最後になりますが、この仕事のやりがい、一番大切に思っていることを教えてください。

お客さまの要望を聞きながら、頭の形、輪郭、髪質などを把握してお客さまに合ったスタイリングを提案していく、そのための技術を「積み重ね、磨き上げる」ことを日々心掛け大切にしています。

テレビなどでは華やかなイメージで描かれることが多い美容師という仕事ですが、基本的にはお客様を輝かせる裏方の仕事と思っています。

お客様に喜んでいただくことが喜びであり、やりがいでしょうかね。

技術の習得を怠らず、新しい道具や材料を積極的に取り入れることの大切さを目の当たりにしました。私たちの地質調査業にも通じるものがあると感じました。

「日々精進」ですね。

お忙しいところお付き合いいただきありがとうございました。この場をお借りしてお礼申し上げます。